

秋田県指定有形文化財「永泉寺山門」



名 称	永泉寺山門 <small>ようせんじさんもん</small>	所在地	由利本荘市給人町4番地
指定区分種別	県指定有形文化財（建造物）	指定年月日	昭和43年3月19日

龍洞山永泉寺は、元和9年(1623)に入部した本荘藩 初代藩主 六郷政乗が、菩提寺として建立した寺院です。開山となった道叟道愛は、本荘藩の曹洞宗寺院の中心として、「法幢師」の立場にありました。

山門は、文久3年(1863)永泉寺住職三十六世義門達宣の発願により、本荘藩十一代 六郷政鑑の保護を受け、三カ年を要して慶応元年(1865)に完成しました。総ケヤキ造り・椽瓦入母屋造り・三間一戸の構造の楼門で、県内最大級の規模となっています(高さ 8.035m 桁行 7.755m 梁間 4.95m 総重量約 50 トン)。

棟梁は尾留川惣助・竹内熊平、脇棟梁は安保左治兵衛、彫刻は庄内鹿之沢住人の御船治喜二・遊佐村宮内の後藤幸二郎です。中でも御船治喜二は、鳥海修験の西之坊融朝の弟子となって技を磨いたとされ、名工として多くの作品を残しています(居成社・龍頭寺(蕨岡)、善宝寺山門、蚶満寺等)。

主な彫刻として、扉の「寒山拾得」、一層の「獅子」「波に竜」「牡丹に獅子」「松に鷹」「池に亀」、二層では「猿」「雲鶴」「鳳凰」「竜馬」「牡丹」などがあり、それらは虹梁や木鼻、その他各部に施されています。また、一層左右の金剛力士像(仁王像)は、本荘の仏師 梅津巳之吉の作です。

二層内部は、四方の壁面全てに飛天や鳳凰が鮮やかに描かれており、中央須弥壇には釈迦如来像、阿難尊者像、迦葉尊者像、十六羅漢像が安置され、極楽浄土の世界を表しています。釈迦如来像や十六羅漢像は、運慶の系譜を継ぐ京都七条仏師の作で、色鮮やかな製作当時の状態で保存されています。

壁の大型板絵9枚は、本荘藩お抱え絵師である増田象江・牧野雪僊・鈴木梅山・阿部永暉の四名による極彩色の飛天図及び鳳凰図で、一部剥落しているものの、非常に良い状態で保存されています。

一層掲額は、山門建立を発願した永泉寺三十六世 義門達宣筆「龍洞護國峰」の額であり、二層掲額は、本荘藩十一代 六郷政鑑筆「城西禅林」の額です。

このように、永泉寺山門は、本荘由利や庄内の工人による建築装飾豊かな建造物であり、近世末期の秋田・山形を代表する仏教建築物のひとつといえます。

山門二層板絵		
琵琶飛天図 (牧野雪僊)	釈迦如来像 (須弥壇)	鼓飛天図 (牧野雪僊)
散蓮華飛天図 (鈴木梅山)		横笛飛天図 (増田象江)
銅拍子飛天図 (鈴木梅山)	鳳凰図 (阿部永暉)	太鼓飛天図 (増田象江)
特蓮華飛天図 (阿部永暉)		笙飛天図 (阿部永暉)
二層東面窓		